

欧州：EGRIE (European Group of Risk and Insurance Economists) の研究動向

大阪産業大学 藤井陽一郎

1. はじめに

本報告では、ヨーロッパでの保険論分野の研究動向について、代表的な研究グループであるヨーロッパ保険学会 (European Group of Risk and Insurance Economists, 以下では EGRIE とあらず) の活動ならびに研究動向について紹介することを目的とする。

2. EGRIE の概要

EGRIE は 1973 年にジェネバ・アソシエーション内に作られた研究会に端を発している。これまでに 1 年に 1 回のペースで EGRIE セミナーが開催されており、2018 年は 9 月にドイツのニュルンベルクで第 45 回のセミナーが開催されている。1 本の報告時間は質疑応答を含めて約 1 時間である。報告には討論者が指定されており、討論者の持ち時間が 15 分程度あることも特徴であると言える。また、EGRIE セミナーではレクチャーとして世界的な研究者が話題を提供する。2018 年はグレン・ハリソン (Glenn Harrison) が、2017 年はオリビア・ミッチェル (Olivia Mitchell) がそれぞれレクチャーをおこなっている。

また、EGRIE が出版するジャーナルとして、The Geneva Risk and Insurance Review がある。このジャーナルの 2017 年でのインパクトファクターは 0.313 で、1 年に 2 号から 3 号のペースで出版されている。

3. EGRIE セミナーでの報告

EGRIE セミナーで報告をおこなうためには、毎年 EGRIE のウェブページに出される Call for Papers に沿って、4 月ごろに論文を提出する必要がある。EGRIE セミナーで受け付けているテーマとしては、「リスクと保険にかかる経済学、ファイナンス、経営科学のアプローチ」とされており、多岐にわたっている。報告にあたっては、事前に匿名のレビュアーによる査読がある。EGRIE セミナーの発表枠は 30 程度であり、さらに EGRIE の重鎮・常連参加者用に一定数が割かれているので、日本からの参加の場合には、残った 20 ほどの椅子を巡っての競争となる。アジアからの報告はいずれも 2~3 本にとどまっている。

EGRIE セミナーには、保険分野にとどまらず、リスクと不確実性下における意思決定分析に関連するトップクラスの研究者が参加している。彼らの報告を聞くことで、ジャーナル掲載よりも 1 年以上前に最先端の研究動向を把握できるという点で有意義である。また、彼らは国際ジャーナルの潜在的なレビュアーであるので、EGRIE セミナーでの報告は、価値が高いものと考えられる。

4. EGRIE セミナーでの研究動向

先にみたように、EGRIE セミナーで受け付けているテーマは多岐にわたるが、実際には選出されるプログラム委員の選好が大きく反映される。大別すると、ミクロ経済学の分析手法を用いた理論研究では①将来に何が起こるか分からない状況の記述とパラメータの変動による比較静学、実証研究においては②大規模なデータを用いた個人のディープパラメータの推定が採択される傾向が強い。

①将来に何が起こるか分からない状況の記述とパラメータの変動による比較静学

将来に何が起こるか分からない状況をどのように記述するかについて、近年ではトップジャーナルに多くの論文が掲載されるようになってきている。発生する事象、事象が観察されたときの結果、各事象の生起する確率が事前に与えられている状況を「リスク」と呼んでいる。一方で、生起する確率が分からない状況を「不確実性」と呼んで区別している。不確実性の一表現として、リスク上に分布を置いた「あいまい性」がさかんに研究されている。たとえば、個人がある疾病に罹患するかどうかについて、高い確率で罹患する高リスクタイプか、そうではない低リスクタイプかについて、確率分布を持つ状況などが挙げられる。EGRIE セミナーでは、あいまい性があるときの意思決定状況の記述とあいまい性下での保険プレミアムの導出やパラメータの変動による比較静学が報告の主流となっている。

②大規模なデータを用いた個人のディープパラメータの推定

実証研究では、大規模データを活用することによって、既存の同質的な個人でなく、性別、国籍、居住地域、金融リテラシーの高低などによってリスク回避度や時間選好率などのディープパラメータを推定し、その傾向をつかもうとする研究がなされるようになってきている。分析に用いるデータについては、フィールドデータだけでなく大規模なアンケート調査をあわせて分析をする研究が採択されるようになってきている。

5. EGRIE セミナーでの採択に向けて

先述のように EGRIE セミナーでの報告には、国際ジャーナルでの論文発表を目指す上で高い価値があるものと考えられる。今後も理論研究、実証研究ともに研究動向は維持されるものと予測される。

2017 年の EGRIE セミナーにおいて、オリビア・ミッチェルのレクチャーでも取り上げられたが、我が国の高齢化のスピードは、他の先進国の 10~20 年先に行くものとしてとらえられている。多くの人々が長生きする状況は、人類が初めて経験するものであり、このような人口動態を踏まえた保険の役割がより一層重要になると考えられている。今後、実験経済学などの手法を取り入れることにより、新たなアノマリーの発見と、それを説明するモデルの構築が加速していくものと考えられる。